

図書館だより

94



開館当時のひばりが丘図書館

ひばりが丘図書館開館30周年！



ひばりが丘図書館は平成6年(1994年)6月15日に旧保谷市で最も新しい図書館として現在の地に開館し、今年で30周年を迎えました。

開館当初約8万5千冊だった蔵書は約15万8千冊にまで増え、今では市の北側を支える図書館として多くの方々に利用されるようになりました。開館当時の様子や、現在のサービスについてご紹介いたします。



★声の広報をお届けしています。

お問い合わせの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel042-421-4545)へお問合せを。

ひばりが丘図書館30年のあゆみ

建て替えされた都営住宅の1階部分に入ったひばりが丘図書館は、およそ2年の準備期間を経て平成6年(1994年)6月に開館。それに伴い、ひばりが丘福祉会館・住吉公民館(現ルピナス)内にあった2つの分室は閉室し、それらの場所などから蔵書となる多くの本を運びました。



◀開館準備中の様子(平成6年2月頃)

新しい書架や閉架書庫に、新しく購入した本や2つの分室などから運んできた本を並べていきます。開館直前には事前の利用者登録を開始し、入り口前で図書館利用カードを発行しました。



開館1年後の館内の様子▶ (平成7年6月頃)

当時、貸出は4冊まで。コンピュータシステムが稼働するまでは、貸出や返却などを全て手作業で行っており、カウンターが返却本でいっぱいになったり、貸出待ちの利用者の列ができていたりすることもありました。



▲開館当時の旧保谷市 図書館利用カード



開館当時から働く職員

商業施設の真後ろ、駅前という立地で、お出かけや買い物のついでの利用や、夜間開館の開始で学生や働く方の帰宅途中の利用など、多くの利用者の生活の一部としてすっかり馴染んできたと思います。絵本の読み聞かせで読んだ本を借りた子から「おもしろかったよ!」と言ってもらえたり、小学生の女の子から「ひばりが丘図書館が好き」とお手紙をもらったりして、嬉しかった思い出もあります。これからもひばりが丘図書館が、地域の皆様の本棚として愛され続けるように取り組んでいきたいと思っています。

令和6年度 第2回西東京市図書館を使った 調べる学習コンクール

毎日の生活の中で、疑問や不思議に思ったことから自由にテーマを選び、
学校図書館や市内図書館の本を使って、調べてまとめてみませんか。
上位入賞者は、表彰式へご招待！ 作品も全国コンクールに出品されます！
みんなの作品をお待ちしております♪

募集する作品

公共図書館や学校図書館を使って調べてまとめた作品。
身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることなど、
テーマは自由です。

対象

市内在住・在学の小学5年生から中学3年生

応募の方法や過去の
作品はこちら▶



調べるのは
苦手…という
あなたに

『調べる学習ガイド
ブック 知りたいを
見つけよう!』
図書館HPから見る
ことができます

募集期間
令和6年

9/1日
~15日

やり方の
わからない人!
あつまれ

調べる学習コンクール連続講座

自分で調べる力がつく!

「調べる学習ってなに?」「夏休みの自由研究、なにからはじめよう…」「どうやって調べるの?」はじめて調べる学習に
挑戦するみんな! 講座を通して調べる学習を体験してみま
せんか。

対象 小学5年生~中学3年生

場所 田無公民館2階 和室など

定員 親子10組(子供だけの参加も可)

申込開始 令和6年6月15日 午前10時~

講師: 重野 悦子さん

東京都公立小学校で
30年間教諭として勤務。
副校長として8年間勤務。
その後、墨田区教育委員
会で同区コンクールの
立ち上げに携わる。



申込は
こちらから▼



講座開催日

第1回

7/7日

13:30~15:30

調べる学習を
やってみよう

調べる学習ってなにから始
めたら良いの? “ミニ調べる
学習”を通して、調べる学習の
進め方を体験します!

講座開催日

第2回

7/21日

13:30~15:30

調べる学習の
コツを知ろう

テーマの決め方、調べ方、ま
とめ方の大事なポイントを学
びます!

講座開催日

第3回

7/26金

13:30~15:30

自分のテーマを
決めよう

テーマを決める個別相談会
を予定しています!

にんにん西東京

西東京市図書館キャラクター
西都右京くん



第39回 「西東京市の文化財② 後編」 小金井桜

今年の春も美しく咲き誇った小金井桜。普段意識する機会の少ない「文化財」ですが、開花と共に身近に感じることが出来たのではないのでしょうか。

前編では、江戸時代中期頃からの小金井桜の成り立ちや変遷について紹介しました。後編の今回は、明治時代以降の「名勝 小金井（サクラ）」についてです。

明治時代になり文明開化と共に鉄道の開通ラッシュが起きます。小金井桜周辺でも、明治二十二（一八八九）年に甲武鉄道（現JR中央線）、明治二十五（一八九二）年には川越鉄道（現西武国分寺線）が開通しました。臨時列車の増発や往復割引切符の発行により、多くの花見客が訪れた記録が残っており、混雑する駅の様子が雑誌の表紙に描かれるほどでした。一方で、この頃から桜並木の衰えも目立つようになり、保護活動の必要性が提唱され始めます。

そこで立ち上がったのが、桜の権威として知られる植物学者の三好学博士。早くから小金井桜に注目し、品種の分類研究を行う中でその保存や保護の必要性も重視してきた人物です。三好博士の働きかけにより明治四十四（一九一）年「日本天然記念物保存に関する建議」案が貴族院に提出され、同年に「史

蹟名勝天然記念物保存協会」も設立されました。そういった活動の中で次第に地元でもその雰囲気が高まり、小金井保桜会（こがねいほおうかい）の発足や調査を経て、遂に大正十三（一九二四）年には、その残存するヤマザクラの希少性や品種の多様さ、武蔵野の環境と調和した優れた景勝地であるとして、国の名勝に指定されるまでになりました。

しかしながらその後、戦争により花見客は激減。戦後も高度経済成長による都市化の波



（2022年3月撮影）
／写真提供 滝島俊氏

にのまれ、小金井桜の周辺の環境が大きく変わり始めます。玉川上水の停水により水路の荒廃が進み、周囲はケヤキなどの高木が雑然と生い茂る雑木林と化しました。重ねて開発による伐採や排気ガス、日照不足による生育不良などが影響し、桜木の数も最盛期の半程度まで減少。武蔵野の自然背景を含めたかつての景観とは程遠いものとなり、名勝地としての危機を迎えます。

近年、市民運動や地元の有志による活動のお陰で徐々に樹木数は回復傾向にあり、千本近いヤマザクラが確認されているそうです。そしてその品種の多様さも再評価され始め、かつての名勝を復活させようと保護活動は意欲的に続けられています。

令和六年十二月九日で、名勝に指定されてからちょうど百周年を迎えます。多くの人に愛されてきた桜並木を今後も守り続けるために、いま一度この節目の年に「名勝 小金井（サクラ）」に目を向け、考えていくことが必要かもしれません。

参考文献

- 『小金井の桜』（東江市編/1926.4）
- 『名勝小金井 桜絵巻（復刻版）』（小金井市教育委員会/2015.1）
- 『小金井市誌－歴史編－2』（小金井市誌編さん委員会編/1970.10）
- 『小金井市史－資料編 小金井桜－』（小金井市史編さん委員会編/2009.3）
- 『名勝小金井桜の今昔』（桜井信夫文/2002.1）

図書館だより93号ににんにん西東京第38回「西東京市の文化財②」の参考文献に訂正がございます。訂正してお詫言申し上げます。

【正】『小金井市史－資料編 小金井桜－』（小金井市史編さん委員会編/2009.3）

ひばりが丘図書館を紹介します！



昭和51年(1976年)に故長岡弘芳氏より寄贈された資料に端を発する原爆小文庫。令和5年に大勢の方の目に触れる入口すぐに移設されました。

YAコーナーは中高生の勉強スペースだけでなく、文庫棚から気軽に本を取り出して読める落ち着いた読書スペースとして人気です。



ひばりが丘図書館は大きな書庫を携えて誕生しました。現在では市内外を問わずたくさん活用されています。



「ひばりが丘図書館30周年記念メッセージ」企画として、たくさんのコメントやイラストをいただきました！(一部掲載)



▲他にもさまざまな30周年企画を行っています

ひばりが丘図書館開館30周年、おめでとうございます。

光陰矢の如しと言いますが、本当に早いものです。ひばりが丘図書館が開館される前に、旧保谷市の図書館運動を市民として活躍なさった方々から「より良いひばりが丘図書館開館に向けて、市民として要望書を出しましょう」とのお誘いを受けて、他市の新設駅前図書館を見学したり、市民の期待する図書館アンケート調査を行ったりしたことを思い出しました。

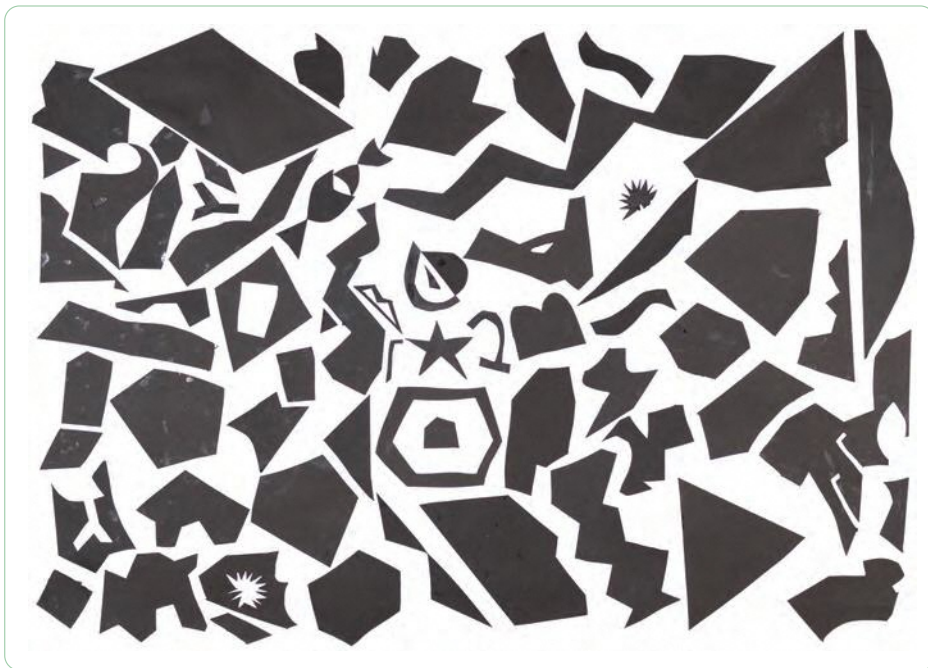
開館した図書館は、学習室はムリでも自習スペースはありました。絵本コーナーにはカーペットが敷かれ、靴を脱いだ幼児が絵本を探したり、親子で読み聞かせをしたりしている姿も見られました。それに、ソファに座って新聞や雑誌を読むことのできる閲覧コーナーもあります。それまでの図書館はとても薄暗く、12時から13時までの時間帯は貸出業務がなかったもので、いつでも借りられて、窓から入る光が明るい図書館が、嬉しかったです。

今はインターネットでつながって、リクエストの手続きさえすれば、遠方の図書館の蔵書本も市内には無い本も、ひばりが丘図書館で借りることができます。高齢に向かうこれからは、電子図書館や、宅配サービスを利用して図書館とつながっていただくと願っています。



開館当時から図書館を利用する市民の五十嵐悦子さん

小さなアーティスト



ココロノサケビ

谷戸小学校 6年

西原の郷土資料室でふと目にした写真集から、私の図書館通いが始まります。

それは『なつかしの田無・保谷』という写真集で、田無市と保谷市が合併して西東京市が誕生してから、10周年を記念して行われたパネル写真展の図録でした。その冊子に掲載されていた写真には子供の時の記憶と重なる場所もあり、大変興味深いものでした。この写真図録は西東京市中央図書館が発行したもので、所有する数多くの所蔵写真から集めたものです。収録された昔の写真には、知らない場所も多々ありました。私は保谷で育ったので、当時の隣町である田無のことはあまり詳しくありません。合併による新しい市名に戸惑いつつも、懐かしさに引き込まれました。

この写真集をきっかけに「この写真はどこ

だろう？ 同じ場所の現在はどうなっているだろう？」という興味が湧いてきて、昔の住宅地図などを閲覧するために、中央図書館の地域・行政資料室に通うようになりました。ここは貴重な資料や貸出不可の蔵書が多く、

緊張感が漂いますが（笑）、職員の方には大変丁寧かつ親切に対応していただき、数々の疑問や情報が得られる場所でした。それからというもの郷土の歴史に興味を抱き、何も知らずに数十年を過ごしてきたことを反省しつつ、田無・

保谷の歴史を勉強しています。

地域・行政資料室は中央図書館の2階にあり、郷土の歴史の宝箱です。昔の地図や古書をつなぎ合わせると、そこから新しい発見が得られることもあり、興味が尽きません。

利用者エッセイ

わたしと
図書館

たきしーた